



APAY eNews

翻訳: 永岡美咲 (日本 Y M C A 同盟)

スリランカ Y M C A 同盟 50 周年式典報告

Aruna Shantha Nonis

8 月 11 日にマウント・ラヴィニア・ホテルにて開催されたスリランカ Y M C A 同盟 50 周年式典には、



海外の Y M C A から出席した 94 人の兄弟姉妹を含む、司教・牧師等宗教家、市民社会団体の代表、各 Y M C A 会員合わせて全 250 人以上のゲストが出席しました。

主な来賓には、世界 Y M C A 同盟総主事のヨハン・ヴィルヘルム・エルトヴィク氏、世界 Y M C A 同盟副会長のフェルナンド・オンドルサ・ビジャル氏、アジア太平洋 Y M C A 同盟 (APAY) の会長ヤウ・チュンワン氏、総主事山田公平氏がいらっしゃいました。インド、日本、シンガポール、フィリピン、ノルウェー、バングラデシュ、ドイツ、オーストラリア、インドネシア、ミャンマー、香港、韓国、タイ、台北、ベトナムからも出席者がいました。来賓の方々には、シンハラやタミルのダンスに導かれながらメインホールに案内されました。式典は、コロombo の英国国教会主教の Dilorajh Ranjith Kanagasabey 師の祈祷によって始まりました。ゲストからの多くの祝福の言葉、そして伝統的なダンスのパフォーマンスが呼び物となりました。



スリランカ国内の Y M C A は、式典中多くの祝福を受けました。その日の午後には、ファンレイジング・ディナーが開催され、エンターテインメントなど楽しみにあふれた会となりました。

日本の Y M C A からは、島田茂 (日本 Y M C A 同盟総主事)、永岡美咲 (日本 Y M C A 同盟スタッフ)、齋藤薫氏 (大阪 Y M C A スタッフ) が出席しました。

総主事デスクより・・・

日本の退職主事による史料編纂活動から学ぶ

アジア・太平洋 Y M C A 同盟総主事 山田公平



今日は、日本の Y M C A 退職主事の活動について紹介します。2003 年の日本 Y M C A 同盟 100 周年にあたり、Y M C A 史を編纂することになり、そのときに退職主事の何人かがその仕事を依頼されました。その働きのため、小さいグループを作り、Y M C A 史の研究が始められました。そのグループが、日本 Y M C A アーカイブ (Y M C A 史料室) を結成することになり、以後、ボランティア数名が毎週 1 回同盟にある史料室にあつまり、それぞれの関心テーマに沿って研究を進めてきました。そして年に 4 - 5 回、関心ある人達があつまり、研究成果を発表してきました。テーマはさまざまで、キャンプの歴史、学校教育、あるいは学 Y やハイ Y の歴史、フラタernal セクレタリーたちの研究など。発表されたものは、ニュースレターに載せられ、関心ある人たちに送られてきます。

今回は、その一つ、今年の 5 月に発表されたものを紹

介します。齋藤實さん(元東京YMCA主事)がまとめたもので、テーマは「1940年の研究」で、大日本帝国内政の変化と日本基督教青年会の変容という内容のものでした。1940年は、国家が次々に戦争に勝つための施策をめぐらし、YMCAも含めて、太平洋戦争を戦う国家建設の路線の中に歩むようになった年であると述べています。すべてが戦争準備、必勝のために歩む国家路線の中で、キリスト教の立場を主張するYMCAが当時、「国家の施策路線から逸脱しないようにあゆみ進めてきた」と述べています。

この研究の中で、YMCAもまた国家路線の中にあつたと指摘しています。戦後の東京YMCAの機関紙など資料を読み、研究する中で、当時の風潮として、殆ど戦争中YMCAがどうであったかと言う反省はなく、多くは新日本の建設のためにという記事であったと指摘しています。唯一、反省の言葉として、昭和21年4月に、発行された機関紙で故木本主事が書いた言葉を引用しています。「日本はこんなことになるのではなかった」という言葉に始まり、歪められた生き方、あり方を意識し、それを避け得なかったこと、さらには国家路線に加担して歩んできた事実に対して、率直にその心情を語っていた。齋藤氏は、YMCAの戦時中のあゆみを自省するようなものは、この文以外には見出せなかったと言っています。さらに木本氏は、「我々は、今は敗戦の苦い経験をもって聖書を読み返さなければならない。日本の再建に際し、聖書を読む同志を求め」と続け、その後の聖書輪読運動が展開されていきました。

齋藤氏は、この研究を通して、私たちYMCAはどんな政治的背景の中にあつても、YMCAの存在の意味を確かめつつ進むことの大切さを感じたと言いい、そのためにも歴史に学ぶ必要を訴えていました。同じ間違いを繰り返さないためにも。

APAY 新スタッフ紹介

APAYに、オルタナティブ・ツーリズムおよびユース・エンパワーメントのプログラム担当スタッフとして、Liem Hwee Mingさんが新たに加わりました。以前、彼女はインドネシアのソロYMCA、サラティガYMCAで働いていました。その後、香港に拠点を持つ「第三世界における観光業に関するエキュメニカル連合(ECTWT: Ecumenical Coalition on Third World Tourism)」にてアシスタント主事として2年間勤務しました。2007年より、ジョグジャカルタYMCAでユース・ワークキャンプのボランティア・コーディネーターとレポーターとしてかかわってきました。

Liem Hwee Mingさんは、サッチャ・ワチャナ・キリスト教大学(Satya Wacana Christian University)で英語を専攻しました。その他、中国・広州の南(ジーナン)大学で中国語を学び、香港で働いてきましたので、中国語は堪能です。APAYでの日々を楽しんでほしいと思います。

(注:文中の「は」は、「既」の下に「旦」)



チェンジ・エージェントのための地球市民育成

2012年8月6日~12日 スリランカ

APAYによるチェンジ・エージェントのための地球市民育成プログラムには、13カ国・地域(オーストラリア、バンラデシュ、カンボジア、香港、インドネシア、インド、日本、ミャンマー、マレーシア、フィリピン、シンガポール、スリランカ、タイ)から37人が集まりました。ユース委員会から6人、20人のユース代表、そして関心を持った7人のユースと、4人のAPAYスタッフが参加しました。

プログラムは目標設定、ウォームアップ・ゲーム、チーム・ビルディングから始まり、お互いに知り合いながらよりよい関係が築





かれていきました。直後のリーダーシップに関するインプットでは、KMF(Keep Moving Forward:前進し続けよう)、SPARK(Speak with candor, choosing our language as it forms character:言葉によって性格が表されるように、正直に話す)、P: Prioritize (優先順位をつける)、A: Adversity bridge opportunity(苦勞すればチャンスへつながらる)、R: Responding(反応する)、K: Kodus, an act of gratitude, always be grateful(常に感謝する態度)。また、HUMAN(Helpfulness(思いやり)、Understanding(理解すること)、taking the lowest position to understand others(他人を理解するために、最も低い姿勢をとること)、Mingle- interact with people(人と交流し、交わる)、Amuse, to see amusement as a leader can let you listen(楽しませる。リーダーは人に話をきかせられるような楽しみを示す)、N: Nurture(育む)などが挙げられました。

開会礼拝の後は、山田公平氏によるインプット・セッションでした。アジア・太平洋地域のユースをチェンジ・エージェントとなすためにエンパワメントするという4か年計画や、チェンジ・エージェントとユース・エンパワメントのためのさまざまなプログラムについて紹介されました。

ジョシュ・バルゲーゼ氏より、世界YMCA同盟のチェンジ・モデルのコンセプトや枠組みについて紹介され、



APAY がどのように能動的に参画し、アジア・太平洋の文脈の中で関連づけ、チェンジ・モデルとしていかにについて話されました。

続いて、Tex Gabo 教授による、社会における現状やダイナミクスや社会のプロセスを、グローバルな社会文化的・政治的観点から理解するための講義が行われ、参加者はグループごとに着席しました。"Hope for the Flowers"という本を読み、グループで考えをめぐらせました。グループ内での感想が各グループから出されました。この感想はグローバリゼーションの定義と、社会の中にどのように力関係が経済、政治、文化的な生活に影響しあうかに結びついたものです。

なぜ人々が周縁化されるプロセスが起こるのかについて説明がなされ、地球市民育成を通して、どのように、そしてどうやって、YMCAが周縁化された人々と一体となり、メインストリーム(主流)のグローバルな現実に入れるために、役割を担えるかという疑問が呈されました。続いて、参加者のためにコミュニティー・エクスポージャーの準備が行われ、現地の人とどのように関係を持ち、交流すればよいか説明された他、私たちに「侵略された」と彼ら・彼女らを感じることはないよう、現地の状況を知り、理解することを大切にしました。具体的なオリエンテーションは、スリランカYMCA同盟のユース・リーダーであり、元APAYユース委員の Thoumyan 氏から行われました。

最終日には、世界YMCA同盟総主事との対話が行われました。世界同盟エルトビック総主事は、参加者からの質問にも明確に回答しながら、NEW WAY のビジョンについて詳しく述べてくださいました。山田公平 APAY 総主事から、ユース代表に対する APAY からの期待、そしてユース代表の各YMCAレベル、各国同盟レベル、地域同盟レベルでの役割について、簡単に紹介されました。またジョシュからは、どのようにして地球市民育成が APAY での中

心的な取り組みとされてきたことの概要、そしてよりよく理解することや教育・研修を通じた行動がなぜ必要とされているか述べられました。

スリランカでのこの行事はとても思い出深いもので、50周年式典のお祝いに彩られたものとなりました。

日本のYMCAからは、永岡美咲(日本YMCA同盟スタッフ)が参加しました。

チェンジ・エージェント・トレーニング・チーム会議 (CATT)2012

アメリカ合衆国 カリフォルニア州 ロングビーチ

1. 会議について

チェンジ・エージェント・トレーニング・チームは、世界YMCA同盟と7つの地域同盟の代表(Sonia Rusugu = ケニア、エロイサ・ボレオ = フィリピン、Margoth Roldan = コロンビア、イダ・トーマス = カナダ、Gerard Tosserams = オランダ、ボブ・カベサ = アメリカ、ホムロ・ダントス = ブラジル)からなる組織体で、2012年7月26日～30日に会合を持ちました。この会議のタスクは、世界YMCA同盟から提案されたチェンジ・エージェント対象のカリキュラムについて最終決定すること、各地域で研修を行うことが可能か検討すること、そして世界レベルの2013年のブラハ・ユース・フェスティバルと、2014年の世界YMCA大会についての可能性や機会について検討すること、そして「変化へようこそ(Welcome to Change)」というメッセージについて学び、発信することです。



2. プログラムと会議進行について

初日は、会場のロングビーチYMCAが運営にかかわるカリフォルニア・インスティテュートとこのプログラムについて知り、出席者がお互いに知り合うことから始まりました。くだけた自己紹介の後、ユース・インスティテュートのスタッフが自己紹介をし、「チェンジ・エージェント・プロダクションズ」と呼ばれるプログラムが紹介されました。「変化を創造し、価値を創造し、未来を創造する」が、最も困難な状況

にあるコミュニティー出身で、成長の機会のあるユースたちのためのスローガンです。彼ら・彼女らは、少数派のユースたちに集団生活のスキルを教えながら、視覚言語(visual language)の専門家になり、学んだスキルを他の人に伝えることができるようになるためトレーニングを受けています。このプログラムの収益はコミュニティーに還元され、ユース・インスティテュートのデジタル・アート・プログラムへの基金となります。

このYMCAのプログラムは、彼らの未来をひらくための支援をするために始められたことから、私たちはこのプログラムに参加しているたくさんのユースたちと、彼ら自身の話や、彼らの生活、努力(struggle)、希望についての話を聞きながら、一日中交流しました。その後、私たちはチームとして彼ら・彼女らの話に関するふり返りをしました。

3. CATT アジェンダ

「変化へようこそ」とはいったい何であるかを理解するために、再度オリエンテーションのプロセスを行い、ふり返りや議論を通じて、以下のような結論に達しました。

- ・より深い理解を目的とするため、すべてのカリキュラムは地域レベルで行う。ブラハではカリキュラムのすべてのトピックに世界からの視点を加え、フェスティバルを通してチェンジ・エージェントたちが交流する機会をつくる。

- ・CATT は、YMCAチェンジ・モデルの最前線にいるファシリテーター、プレゼンターとして、地域レベルでのトレーニングにおいて「変化へようこそ」というメッセージを全体に掲げて行動する。世界同盟のホムロが基準を示す。

- ・CATT のグループは情報のアップデートや議論を行うために定期的に集まり、地域同盟や各国YMCAにおける特定の課題について対処するため、サイド・ミーティングを行う。

- ・トレーニングの内容は、学習の場、インターネット会議や文献資料を通して、すべてインターネット上で提供される。

ブラハ・フェスティバルについて(2013年8月4日～10日)

目標:

1. チェンジ・エージェントは、団結し、かつダイナミックなリーダーたちの世界チームを結成する。

2. チェンジ・エージェントは、プレゼンテーション、自分自身・身の回りのことについての語り(story telling)、情報の共有や対話を通して、リーダーシップ・スキルを発揮する。

3. チェンジ・エージェントは、グローバル・イシューについての知識を得、自分たちがユース・エンパワーメントとどのように関連しているかを知る。

4. チェンジ・エージェントは、眠れる巨人(全世界のY M C Aが一体となった存在)を起こすことを実行し、チェンジ・モデルとしての自分たちの役割についてさらに理解する。
5. チェンジ・エージェントは、2014年の世界Y M C A大会で期待されている自分たちの役割・責任を理解する。

プログラム内容:

- 1 日目(3時間): **チームビルディング・オリエンテーション**
ストーリー・テリング: Y M C Aのチェンジ・モデルとしての例となる、スペース/トランスフォーメーション/インパクトに関する話を見つけることに焦点を当てる。
- 活動2: **小さな結果を目標にしたネットワーク作り**
上記のような話を収集する間、チェンジ・エージェントは、個人的なネットワークづくりのため、また組織の変化プロセスにおける今後のプロジェクトへのコラボレーションのため、フェスティバルの参加者との関係構築に熱中するであろう。プラハ・フェスティバルは、関係づくりの場。
- 2 日目(2時間): **地球市民・地球課題への意識 異なる現実の中でトレーニングを受け、尊敬と団結をはぐむ。**
グループ・ディスカッションで行われる。
- 3 日目(2時間): **チェンジ・エージェントの役割**
チェンジ・エージェントとしての使命を理解し、個人や組織のレベルでの実践がどのようにして自分たちの役割に活かせるか考える。
- 4 日目: **サービス・ラーニングデー(2時間)**
- 5 日目(2時間): 世界Y M C A大会準備

APAY 第30回アドバンス・スタディー・プログラム

今年、バングラデシュ、カンボジア、中国、香港、インド、日本、韓国、ミャンマー、マレーシア、フィリピンとスリランカより全14人が、第30回のアドバンス・スタディー・プログラム(ASP)に参加します。Y M C Aスタッフのためのこの研修は、11月5日から11月30日まで香港で行われます。

APAY ユース委員紹介

私の心の近くに(Close to my heart)

Balmi Chisim Tora(バングラデシュ)

私が4歳か5歳だったとき、子どもたちと遊ぶために、ビリシリ(Birisiri) Y M C Aによる無料の小学校(私の所属Y M C A)によく行きました。子どもたちは靴やサンダルをはいておらず、ぼろぼろの制服を着ていたのでした。私は、彼ら・彼女らが必要としているものをあげて、援助したいと思いました。私が学校に行くことに興味を示し、私の服や靴を子どもたちにあげたいと言ったら、私の両親はとても驚きました。これが私にとって、他の人が必要としているものをシェアした初めての経験です! この出来事をきっかけに私は、貧しい人を助けたいと思ったのです。



Y M C Aのクリスマス前のプログラムの際、初めてソロでダンスを披露したとき、芸術によって人々に感動(inspiration)を与えることができると知りました。その後、毎年行われるY M C Aユース・セミナーや文化交流プログラムに参加し、本当の友達に出会うことができました。ビリシリY M C Aにボランティアとして参加するようになってから、バングラデシュ代表として、APAY や国際ユース・フォーラム、2010年の世界Y M C A大会に参加する機会を得ました。このとき、世界中のY M C Aファミリーを知ることによって心から目覚めました。これは、私の研究と人生における重要な決定を下すという、とても重要なインパクトを与えました。ユースたちと世代間をつなぐ関係づくりに携わり、人々に法的な面での情報を提供し、支援をしながら、人々に自分の権利について知ってもらうことを、私の責務にするべきであると気づきました。今、とても充実していますし、幸せでもあります。Y M C Aは私がリーダーシップの質を高められるよう面倒を見、場を与え、環境をつくってくれました。Y M C Aは、私の創造性を高め、モチベーションに誠実さを伴わせ、コミットメントを強め、コミュニケーション能力を高め、物事を計画するスキルを上げ、革新性を持ち、チームという環境下での働き、そして文化水準を高

める機会の道筋を与えてくれました。失敗も成功も受け入れ、同情や愛をポジティブに実践してきました。YMCAはいつも、公正や平和、権利のある暮らしの実現に向かって歩き続ける勇気を与えてくれるのです。

ユース代表 ウェイン・タン・ウェイ・アン (シンガポール)



次世代の社会により変化をもたらそうとするリーダーとなれるよう、ユースをエンパワーすることは、とても効果的な手段です。したがって、私にとっては、まさに来るべき奇跡の始まりだと感じられます。今は、世界中のユースが、まさに目にしたいと思っている変化を、本当に見ることができるときなのです。まさに、今日のユースが国籍、人種や宗教を越えて団結するときなのです。すべての壁を乗り越えて、変革を求め始めるのは、なんてすばらしいことでしょう。

ユース委員会委員長 アルヴィン・カン(香港)

地球市民というのは、私にとって、変化の中の小さなステップのたくさんの集まりです。ひとつひとつの小さなステップによって、私たちは前進することができ、世界中のYMCAの多様性を集積的かつ前進的に持ち寄り、ユース・エンパワーメントという共通の目標かつ新しいアイデンティティーを目指しましょう。スリランカでの地球市民育成トレーニングは、私たちの旅の始まりです！



**グローバル・オルタナティブ・ツーリズム・ネットワーク
最新情報**

グローバル・オルタナティブ・ツーリズム・ネットワーク(GATN)のタスク・フォースが2012年3月のAPAY常務委員会の際に結成され、APAYにおけるGATNプログラムのイニシアティブを持つという役割を担っています。2011年11月、カンボジアで開催された国際オルタナティブ・ツ

ーリズム・フォーラムの際に結成されたサポート・グループが近ごろ再結成されました。再結成したサポート・グループは、(1)倫理規則、(2)承認、(3)マーケティングの3点を担います。それぞれの小委員会は、できるだけ短期間で責任を全うする努力が求められています。彼らは数回招集されます。私たちは、すでにある程度の成果をあげることができたとお知らせできることを、うれしく思います。その成果とは、(1)オルタナティブ・ツーリズム観光地の認定、(2)オルタナティブ・ツーリズムの倫理規定の策定、(3)オルタナティブ・ツーリズム観光地の認定に必要な5つの基準、(4)認定を目指す4つのオルタナティブ・ツーリズム観光地の調査、以上の4点です。オルタナティブ・ツーリズム認定への応募が、タイ・チェンマイYMCA、フィリピン・パンガシナンYMCA、インドの Yellagiri YMCAとガヤYMCAから出されました。スリランカ・コマリYMCAとバングラデシュ・ビリシリYMCA、カンボジアYMCAの認定については、協議中です。

現在、APAYでは、試験的にGATNウェブサイト運営しており、もっぱらGATNのプロモーションやマーケティングに利用されています。GATNのマニュアルは現在作成中で、そのマニュアルは、アジア・太平洋地域のYMCAにおけるオルタナティブ・ツーリズム活動にも応用可能なガイドラインとなる予定です。GATNタスク・フォースのミーティングが8月31日～9月2日にバンコクで開催され、今後3年間の行動計画が決定されます。インドネシアYMCAよりLiem Hwee MingさんがGATNのプログラム担当者として2012年9月1日から加わったことで、この分野での働きを強めていきたいと思えます。

APAYのグローバル・オルタナティブ・ツーリズム・ネットワークは、3年間という短期間で、能動的に動き、オルタナティブ・ツーリズムのプロモーションに深くかかわり、この分野に長けたYMCAのためだけでなく、オルタナティブ・ツーリズムに携わる他の組織も巻き込むことが期待されています。

GATNはオルタナティブ・ツーリズムの要因に貢献してきた他のネットワークと関係を持ち、コミュニティーと人々の価値観を維持するためにかかわり、またGATNは伝統的な大衆による観光によって、残忍に掠奪された自然やエコロジーを減少させると誓約しています。

GATNは、APAYと協力し、一定の期間内に、必要な人材を持つ自立的な組織となるよう変革がなされること、そして、運営に必要な資源が動員できることを望みます。

発行元
アジア・太平洋YMCA同盟
 Asia and Pacific Alliance of YMCAs
 23 Waterloo Road, 6th floor, Kowloon, Hong Kong
 tel. 852-2780 8347, 2770 3168, 2783 3058; fax 852- 2385 4692
 e-mail: office@asiapacificymca.org